

老年看護学

■構築の考え方

老年看護学では、加齢変化や長年の生活習慣による影響を踏まえ、健康の維持増進、健康管理、さらに日常生活の援助が求められている。さらに、避けることのできない日々衰えていく加齢変化や喪失体験の失調要素と、様々な困難の中でも今まで生き抜いてきた統合という同調要素が対立し成長し続けている対象に対して、人生最期の時である、安らかな死が迎えられるよう援助することである。高齢者ひとり一人には、その人の歴史がある。そのため個人によって老いの現れ方は、多様で個別性が高いことを踏まえ、その人らしさを受け止めていくことを学ぶ内容とした。また、疾病や健康障害を持ちながら日常生活に適応でき、自立・自律した生活が送れるように、高齢者の生活機能をアセスメントし、健康問題を解決するための援助を学ぶ内容とした。また、平均寿命にして80年を超える時代となり、疾病・障害という健康や介護の問題、老いの時間をどう築くかという生活基盤の問題、また高齢者をどのように社会が支援していくのか、高齢者の社会福祉制度や高齢者を取り巻く保健・医療・福祉対策について学習する。「老年看護学概論」では、老年期にある対象を理解し、老年期の看護の基本的な考えを学び、「老年看護援助論Ⅰ」で、高齢者の生活維持・健康生活のための看護実践ができるための知識や技術を修得させる。「老年看護援助論Ⅱ」では、健康障害のある高齢者の看護や認知症看護、治療処置を必要とする高齢者の看護を学ぶ内容とした。これらの学習を踏まえ「老年看護援助論演習」では、慢性期の看護過程の展開を学ぶ構成とした。